

BSS ご加入ユーザーさまへ



2025 年度 PC-MAPPING 機能追加・更新情報のご報告

第 1 版 2025 年 12 月 04 日 現在

株式会社マプコン

GeoJSON 形式のインポート・エクスポート更新	3
[ディスプレイポリゴンを別レイヤー転記]オプション追加	3
整飾プロジェクトへ置き換え文字を追加	3
[クイック印刷]コマンドへオプション追加	4
背景ピクチャー調節用のコマンドの追加	4
[集計・統計処理]コマンドオプション追加	4
[断面図]縮尺設定追加	5
ISG 形式のジオイドデータに対応しました	5
高さ補正の変動補正パラメーター(*.par)に対応しました	6
[地殻変動による座標・標高補正]オプション追加	6
[LAS ファイルに対する補正パラメーターによる座標・標高補正(連続一括処理)]の追加	7
[格子状に配置された LAS ファイル点群から標高メッシュデータを生成]の追加	7
[ネットワーク到達位置解析(時間指定)]追加	7
[ポリゴン構造編集(交点分割)]追加	8
[メッシュポリゴン、格子ポイント生成]オプション追加	8
[個別選択]-[特殊選択]オプション追加	9
「磁北線の描画機能」追加	9
[背景ピクチャー]-「コンパス」オプション追加	10
「真北線の描画機能」追加	10
ステータスバー表示項目追加	10
「地磁気西偏角」	10
「真北方向角」	11
「KML ファイルエクスポート」オプション追加	11
[ネットワーク解析]オプション追加	12
「SXF インポート」オプション追加	12
[タスクメニューバー]カスタマイズオプション追加	12
[フィールドデータの分解]オプション追加	13
[属性転記(レイヤー間)]メニュー追加	13
[バッファー選択]へ複数レイヤーを対応	13
ENVI 形式(.hdr + .img)の画像ファイルの取り込みに対応	14
[ポイントから垂線アーク生成]追加	14
「ExportShp」新規パラメーター追加	14
[メッシュポリゴン、格子ポイント生成]オプション追加	15
[バッファー生成]コマンドオプション追加	15
[アーク・ポリゴンオーバーラップ算出]追加	15
「コマンド文での区切り文字」の設定機能の追加	16
レイヤー[併合・連結(同一タイトル)]追加	16
[地理院タイルを広域イメージに登録]オプション追加	16
クイックバーのトグルボタン(チェックボックス)オプション追加	17
MDI 子ウィンドウのキャプションバーのカラー設定を追加	17
[プロジェクトワークスペース]表示更新	18
選択レコードのカレントレコード 着色変更	19
「標高メッシュプロジェクトの設定」オプション追加	20
[EXIF-JPEG ファイル]の方向の指定	20
[GeoTiff ファイルからワールドファイルの生成]追加	21
[16ビット階調 TIFF ファイルを 8ビットカラーTIFF に変換]追加	21
[システム]-[画像]-[画像入力変換]メニュー改称	21
[地理院地図]-[広域イメージ登録]修正	21
Proc 系コマンド追加	21
[指定点を包含する(仮想)ポリゴンを構成するアーク選択反転]追加	22
リレーション起動 オプション追加	22

索引図(インデックスマップ)の背景ピクチャー設定	23
本図の描画範囲を指定する	23
索引図プロジェクトの描画範囲を指定する	23
[整飾プロジェクトの生成]-「索引図(インデックスマップ)」オプション追加	23
[ポリゴン生成]ダイアログ変更	24
[キーリスト]パネル 操作追加	24
[ポリゴン生成]コマンド オプション設定	25
[アーク勾配算出]オプション追加	25
[イメージ]-[変換]新規オプション追加	25
地理院地図表示 オプション追加	26
「pcm.ini ファイルを文字コード UTF16LE で保存する」追加	26
※Pcm.ini 編集についての注意	26
[Z 値]-[Z 値照会・更新]ダイアログ更新	27
[Z 値]-[個別 Z 値付与]オプション追加	27
[Z 値]-[一括 Z 値付与]オプション追加	28
[Z 値]-[ノード・アーク間 Z 値操作]オプション追加	28
計算フィールド 新規コマンド追加	28
[データベース]-[表示]追加	28
[属性転記(レイヤー間)]オプション追加	29
[タスクメニュー]オプション追加	30
[座標で表示中心位置設定]項目追加	31
スナップショット機能 オプション追加	31
「表示モード」機能追加	32
[文字列編集]-[文字列間交差検査]追加	32
[固有属性選択]Z 値での選択 追加	32
[特殊選択]ユニオンのパイロット追加	33
「コマンド文での区切り文字」の設定 オプション追加	33
「メニューにないコマンド」を追加	33

GeoJSON 形式のインポート・エクスポート更新

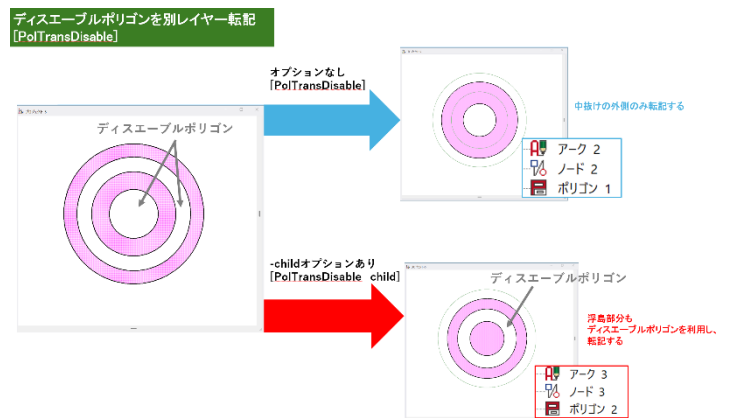
GeoJSON 形式の日付型のインポート・エクスポートにつきまして、エクスポート時は日付型のフィールドに対して、**ISO 8601 形式の文字列**(例: 2025-03-18T15:30:00)として出力し、インポート時は、この形式の文字列を日付型に変換してインポートするように更新いたしました。

PC-MAPPING では、GeoJSON 形式に合うような形(**yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss**)で、出力を行います。GeoJSON を介して様々なソフトにインポートをする際に、文字型のつもりの値"2025-03-21"が日付型として認識される、といったことが考えられますので、使用時にご確認ください。

[ディスエーブルポリゴンを別レイヤー転記]オプション追加

[編集]-[ポリゴン]-[構造編集]
[ディスエーブルポリゴンを別レイヤー転記]
 コマンド「**PolTransDisable**」に
-Child オプションを追加しました。

ディスエーブルポリゴンに包含される有効なポリゴンがあった場合は、それらの子ポリゴンとして転記します。元レイヤーのディスエーブルポリゴンが通常ポリゴンに、ディスエーブルポリゴンに包含される通常ポリゴンがディスエーブルポリゴンとして生成されます。



整飾プロジェクトへ置き換え文字を追加

整飾プロジェクトの置き換え文字に
 %YEAR% …年(西暦)
 %MONTH% …月
 %DAY% …日
 %HOUR% …現時刻の時間
 %MINUTE% …現時刻の分数 に加えて、
 %SECOND% …**現時刻の秒数**を追加しました。



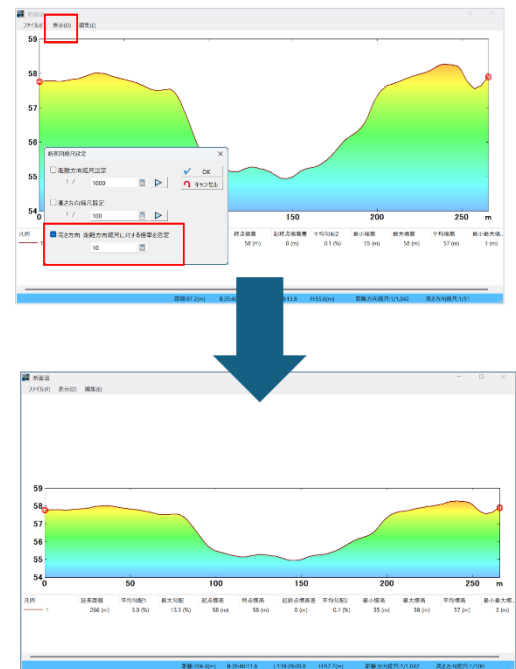
[断面図]縮尺設定追加

[ツール]-[図上計測]-[断面図・縦断面図]-[図上計測(断面図)]

[ホーム]-[図上計測]-[断面図・縦断面図]-[断面図]

断面図生成から表示される 断面図ウィンドウの、
「表示」-「縮尺設定」-「断面図縮尺設定」に
「距離方向縮尺に対する倍率」を追加しました。

これが ON の場合、距離方向の縮尺に対して、
指定の倍率をかけ、縮尺で高さ方向を調整・描画を行います。



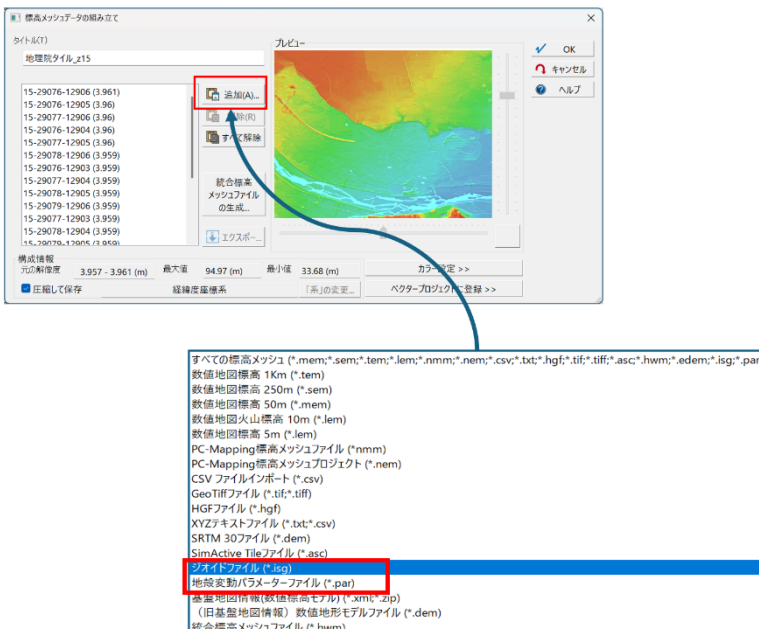
ISG 形式のジオイドデータに対応しました

[プロジェクトエキスパート]-[標高メッシュ]パネル

-【構成設定】ボタン

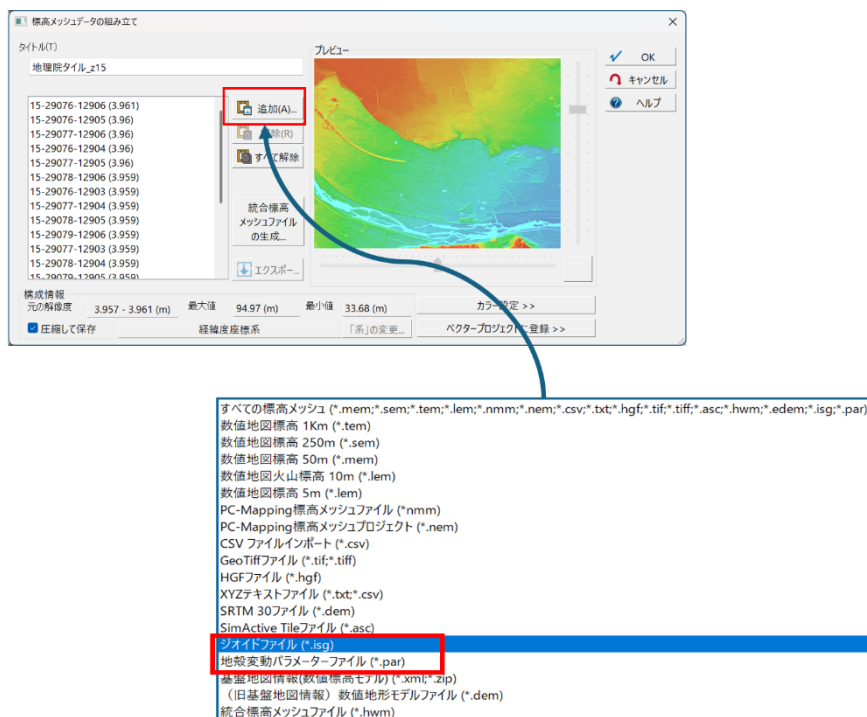
-「標高メッシュデータの組み立て」ダイアログ内の、
追加で取り込めるデータとして、**ISG 形式のジオイドデータ**に対応しました。
(GML 形式データに関しては従来から対応しております。)

[こちら](#)を合わせてご確認ください。



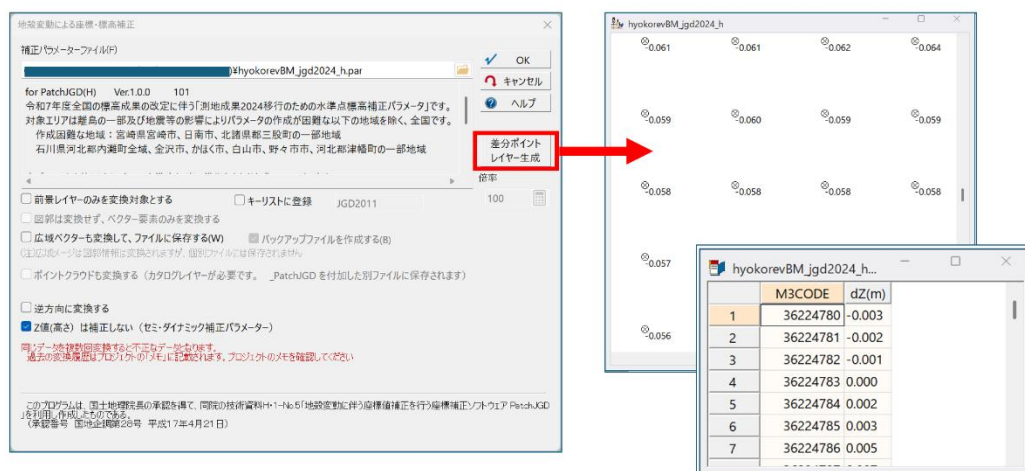
高さ補正の変動補正パラメーター(*.par)に対応しました

【プロジェクトエキスパート】-【標高メッシュ】パネル-【構成設定】ボタン-「標高メッシュデータの組み立て」ダイアログ内の、追加で取り込めるデータとして、高さ補正の変動補正パラメーター(*.par)に対応しました。補正量分を標高メッシュの型式で視認できます。



【地殻変動による座標・標高補正】オプション追加

【プロジェクト】-【変換】-【地殻変動による座標・標高補正】のダイアログで、高さ補正の変動補正パラメーター(*.par)を指定した場合、【差分ポイントレイヤー生成】ボタンより、各パラメーター位置にポイントを生成して、補正量を属性値として表記できます。



[LAS ファイルに対する補正パラメーターによる座標・標高補正(連続一括処理)]の追加

[システム]-[測地成果変換]-[測地成果変換]へ、
[LAS ファイルに対する補正パラメーターによる座標・標高補正(連続一括処理)]を追加しました。
複数の LAS ファイルをまとめて、指定した補正パラメーターによって座標・標高補正変換を行います。

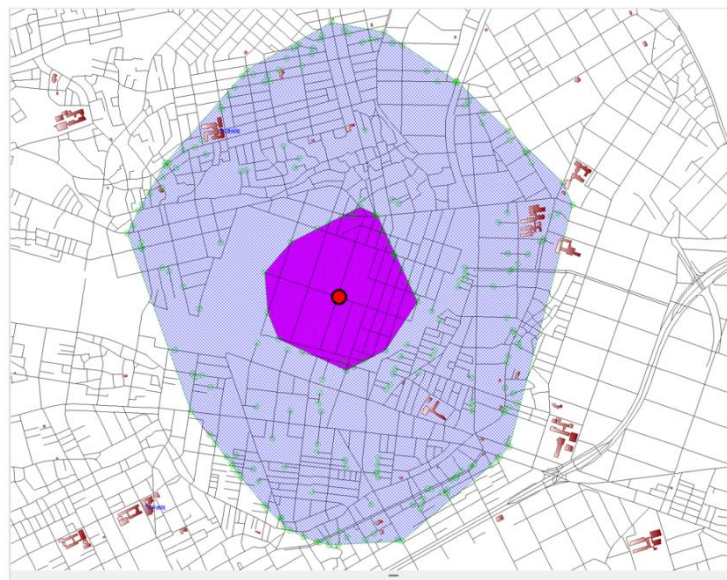
※現在「JGD2024」を表現する EPSG コードがなく、geotiff 形式では表現できないので、WKT 欄に出力しています。
今後 LAS の座標系の表現方法で指示があれば変更される可能性もあります。(2025.5 現在)

[格子状に配置された LAS ファイル点群から標高メッシュデータを生成]の追加

[システム]-[LAS]へ、[格子状に配置された LAS ファイル点群から標高メッシュデータを生成]を追加しました。
指定の解像度で格子状に配置された LAS ファイル点群から、標高メッシュデータを生成します。

[ネットワーク到達位置解析(時間指定)]追加

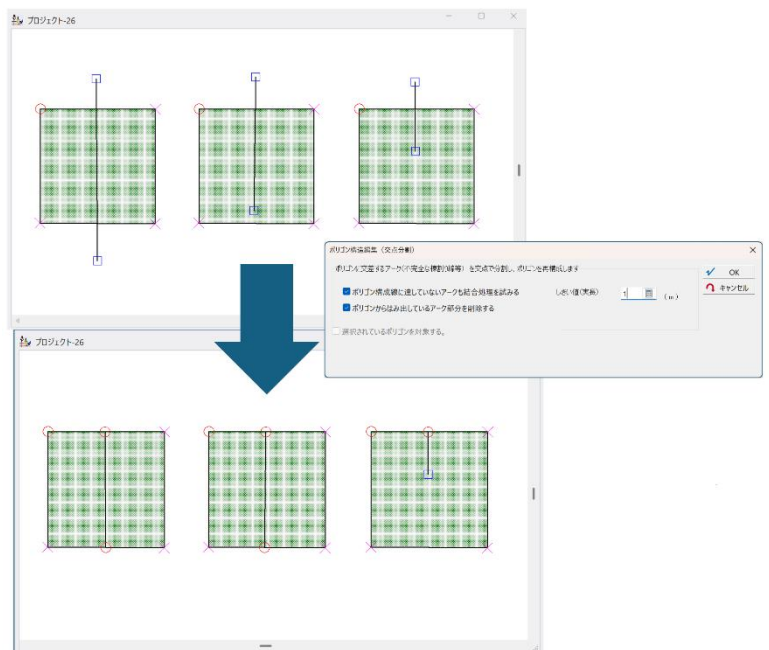
[ツール]-[ネットワーク]-[ネットワーク解析]に、[ネットワーク到達位置解析(時間指定)]を追加しました。
アークネットワークを解析し、各アークの通過時間情報より起点からの到達位置を求めます。
※使用時には、アークの内部属性として、通過時間もしくは通過速度に関する属性フィールドが必要です。



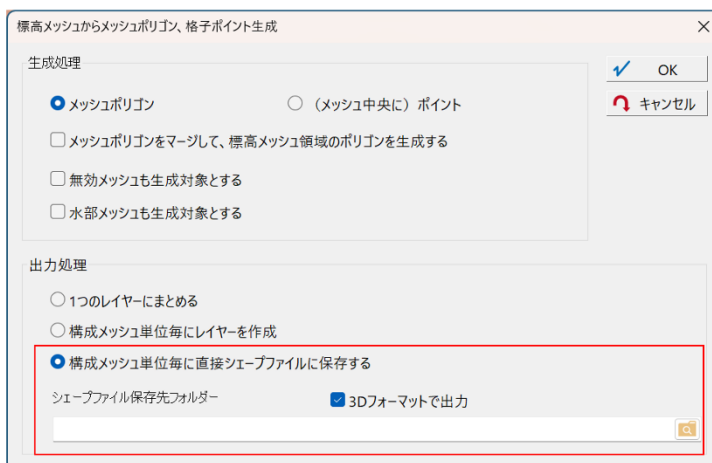
スタート地点(赤丸)から3分以内に到着できる範囲(青)
1分以内に到着できる範囲(ピンク)

[ポリゴン構造編集(交点分割)]追加

[編集]-[ポリゴン]-[構造編集]へ、
[ポリゴン構造編集(交点分割)]を追加しました。
 ポリゴンに交差するアーク(不完全な棟割り線等)
 を、交点で分割し、ポリゴンの再構成を行います。
 また、ポリゴン構成線に達していないアークも、
 結合処理を試みます。



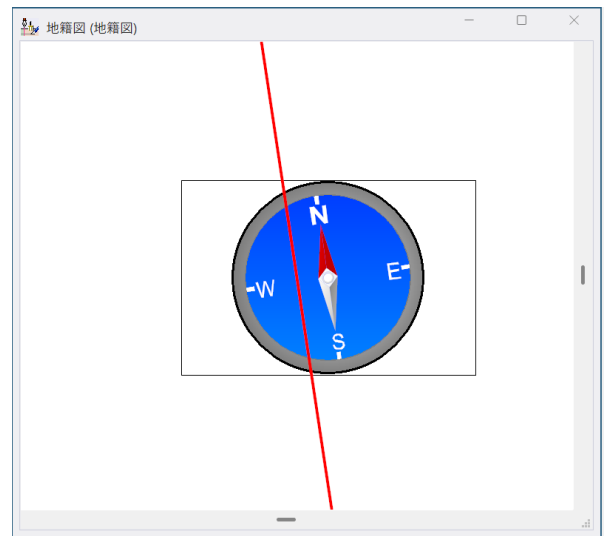
[メッシュポリゴン、格子ポイント生成]オプション追加



[編集]-[標高メッシュ]-[編集]
-[メッシュポリゴン、格子ポイント生成]へ、
構成メッシュ単位にシェープファイルへ出力するオプションを追加しました。

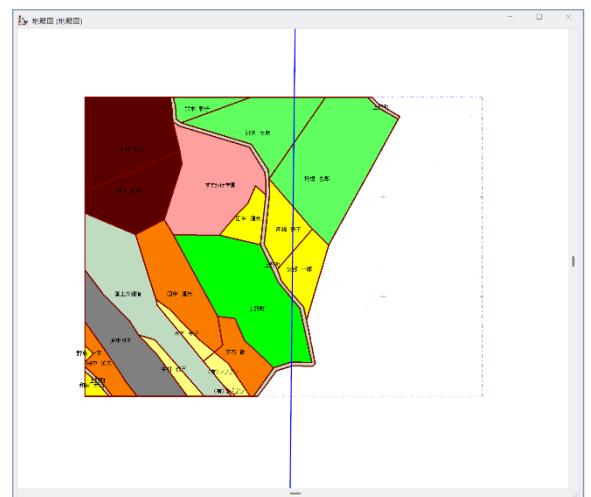
[背景ピクチャー]-「コンパス」オプション追加

[プロジェクトエキスパート]-[背景ピクチャー]パネルのコンパスにつきまして、キーリストに **@MagneticLine = 1** を設定することで、コンパスを磁北線方向に合わせて回転描画できます。



「真北線の描画機能」追加

[プロジェクトエキスパート]-[キーリスト]パネルへ、新規キーリストを追加しました。
@TrueNorthLine を設定することで、画面上に真北線を描画します。
詳細につきましては、ヘルプファイルをご参照ください。



ステータスバー表示項目追加

「地磁気西偏角」

[プロジェクトエキスパート]-[環境-2]パネル - 「ステータスバー表示」の表示項目に「地磁気西偏角」を追加しました。
画面上、マウス位置での地磁気西偏角を表示します。



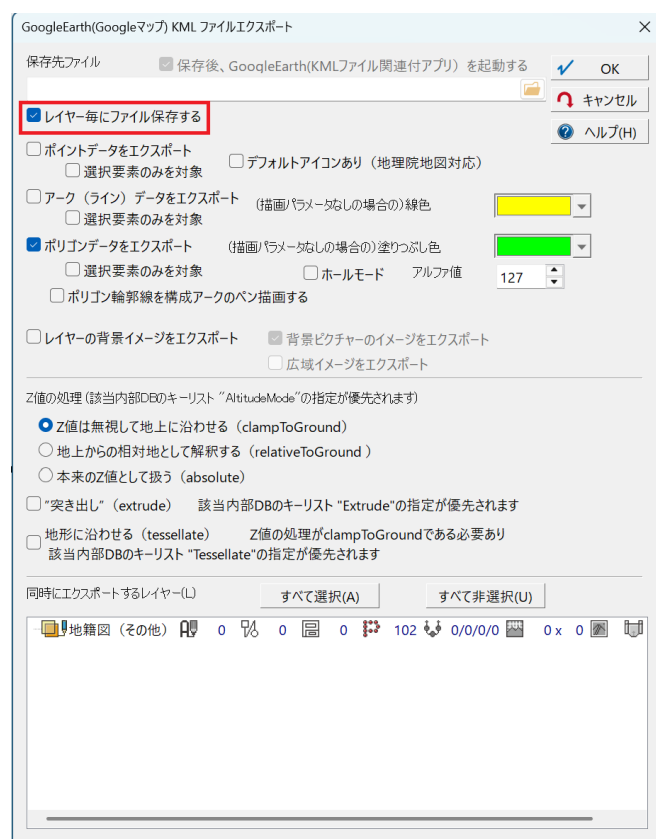
「真北方向角」

[プロジェクトエキスパート]-[環境-2]パネル 「ステータスバー表示」の表示項目に「真北方向角」を追加しました。
画面上、マウス位置での真北方向角を表示します。



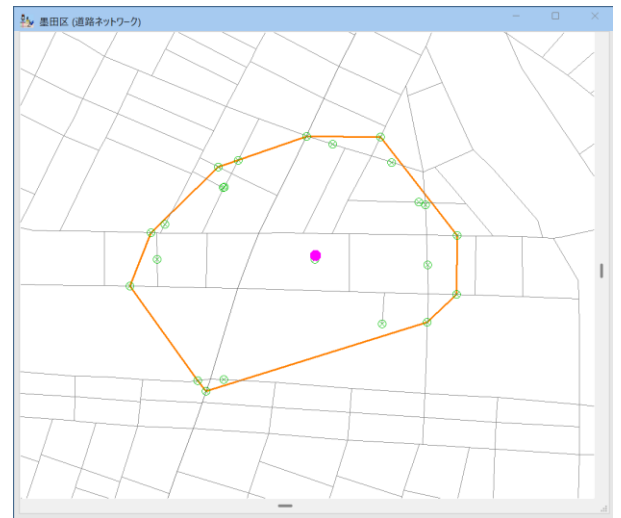
「KML ファイルエクスポート」オプション追加

[エクスポート]-[汎用]
-[GoogleEarth (Google マップ) KML ファイル]へ、
「レイヤー毎にファイルを保存する」オプションを追加しました。
これが ON の場合、保存先ファイルのフォルダーと拡張子が参照され、ファイル名部分はレイヤー名に置き換えられて出力されます。
※背景ピクチャーや広域イメージは出力されません。



[ネットワーク解析]オプション追加

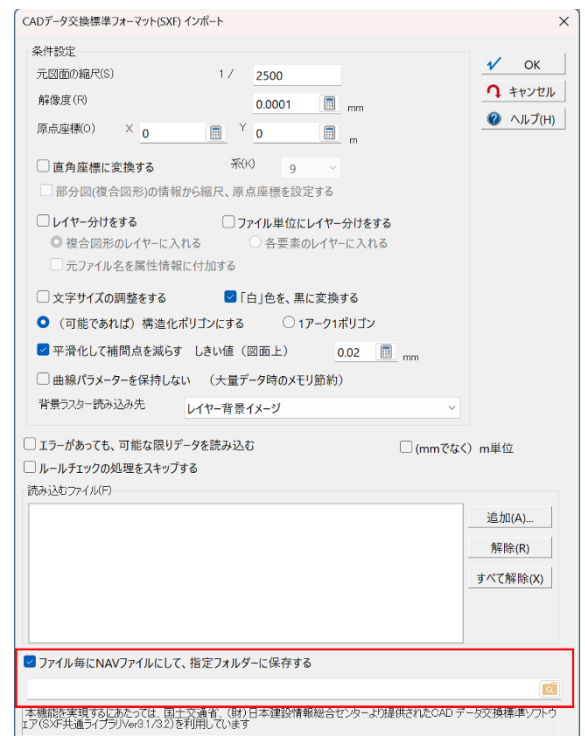
- [ツール]-[ネットワーク]-[ネットワーク解析]
・[ネットワーク到達位置解析(距離指定)]
・[ネットワーク到達位置解析(時間指定)]へ、
「旗立てはしない」オプションを追加しました。



「SXF インポート」オプション追加

[インポート]-[CAD]-[CAD データ交換標準フォーマット(SXF)]へ、
「ファイル毎に NAV ファイルにして、指定フォルダーに保存する」を
追加しました。

SXF ファイル単位に指定のフォルダーに NAV 型式で保存して、
広域ベクターとして登録したプロジェクトを生成します。



[タスクメニューバー]カスタマイズオプション追加

[ワークスペース]-[コマンドバー]-[タスクメニューバー]
[タスクメニューバーのカスタマイズ]において、
ファイルからの【追加読込】ボタンを追加しました。

[フィールドデータの分解]オプション追加

[データベース]-[編集]-[編集]

[フィールドデータの分解]に、
セパレーター文字として、

- タブ(TAB)
- 行替え(LF)
- リターン(CR)

を別途指定できるようにしました。

[セパレーター]

テキストボックスにセパレーター記号を入力します。

ここで入力した記号で分割したフィールド「元フィールド名++n」が作成されます。

	登録日	登録日-1	登録日-2	登録日-3
1	2013-11-02	2013	11	02
2	2013-11-02	2013	11	02

「タブ (09)」チェックボックス

ONの時、タブ箇所で分解します。

「LF (10)」チェックボックス

ONの時、行替え箇所で分解します。

「CR (13)」チェックボックス

ONの時、リターン箇所で分解します。

[属性転記(レイヤー間)]メニュー追加

[属性]-[オプション]-[属性転記]-[属性転記(レイヤー間)]に、以下新規メニューを追加しました。
詳細につきましては、ヘルプファイルをご参照ください。

- アークから始点を包含するポリゴン属性(最大値)
- アークから始点を包含するポリゴン属性(最小値)
- アークから始点を包含するポリゴン属性(連結)
- アークから終点を包含するポリゴン属性(最大値)
- アークから終点を包含するポリゴン属性(最小値)
- アークから終点を包含するポリゴン属性(連結)

- ポリゴン属性から始点包含アーク属性(最大値)
- ポリゴン属性から始点包含アーク属性(最小値)
- ポリゴン属性から始点包含アーク属性(連結)
- ポリゴン属性から終点包含アーク属性(最大値)
- ポリゴン属性から終点包含アーク属性(最小値)
- ポリゴン属性から終点包含アーク属性(連結)

[バッファー選択]へ複数レイヤーを対応

[選択]-[個別選択]-[バッファー選択]で、複数レイヤーを指定して選択できるようになりました。
コマンド「SelBuffer」に新型オプションを追加しました。
詳細につきましては、ヘルプファイルをご参照ください

ENVI 形式(.hdr + .img)の画像ファイルの取り込みに対応

ENVI 形式(.hdr + .img)の画像ファイルの取り込みに対応しました。
※GDAL がインストールされている必要があります。

なお、マルチバンドに関してはデフォルトで、
第 1 バンド=青、第 2 バンド=緑、第 3 バンド=赤として取り込まれます。
※第 4 バンド以降は無視されます。

このバンドの設定は pcm.ini にあります。

[Envilmg]

Red=3

Green=2

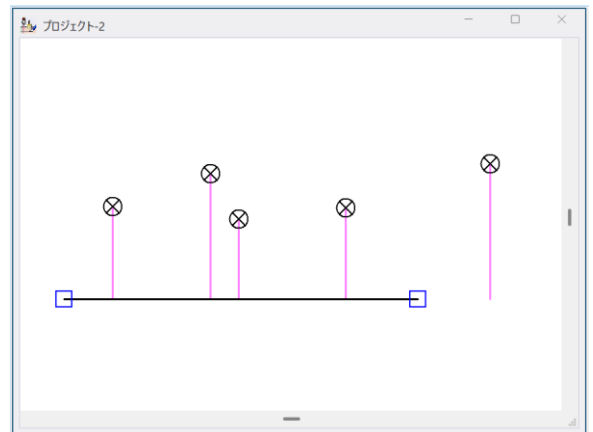
Blue=1

出力の 3 チャンネル目 = 赤、2 チャンネル目 = 緑、1 チャンネル目 = 青 を意味しております。

この設定を変更することで、取り込むバンドを変更できます。

[ポイントから垂線アーク生成]追加

[編集]-[編集]-[編集作図]へ、
[ポイントから垂線アーク生成]を追加しました。
ポイントから指定レイヤーのアークへの垂線アークを生成します。

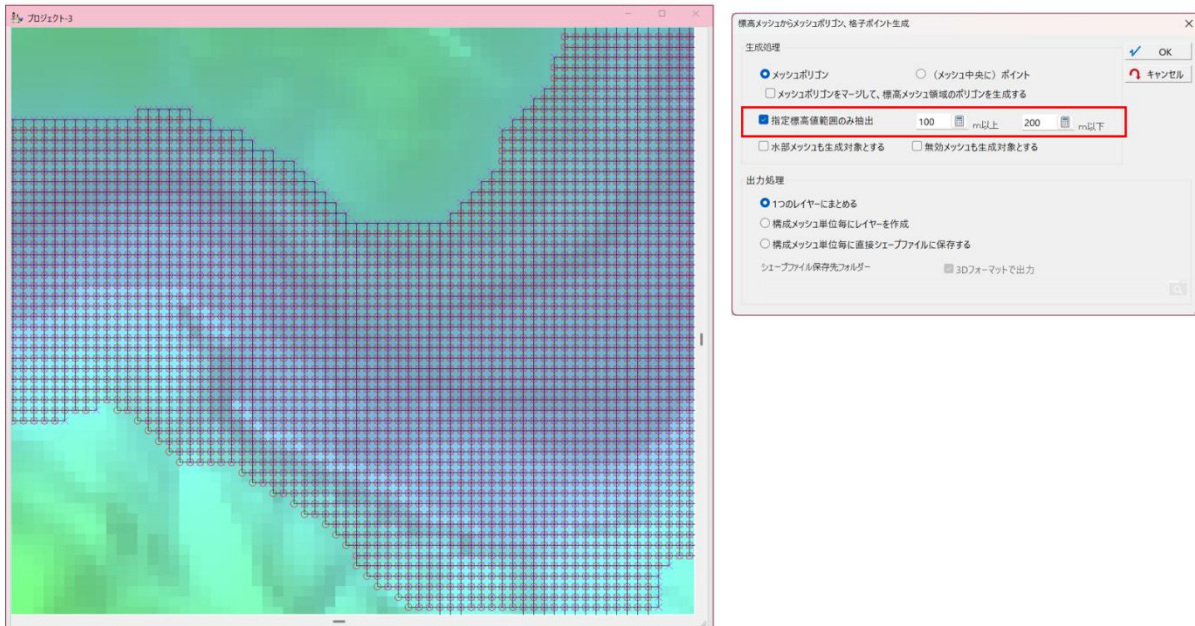


「ExportShp」新規パラメーター追加

[エクスポート]-[汎用]-[ArcView シェープファイル]の、
シェープファイルエクスポートのコマンド「**ExportShp**」に新規パラメーターを追加しました。
詳細につきましては、ヘルプファイルをご参照ください。

[メッシュポリゴン、格子ポイント生成]オプション追加

[編集]-[標高メッシュ]-[編集]-[メッシュポリゴン、格子ポイント生成]へ、指定標高値範囲のみ抽出のオプションを追加しました。

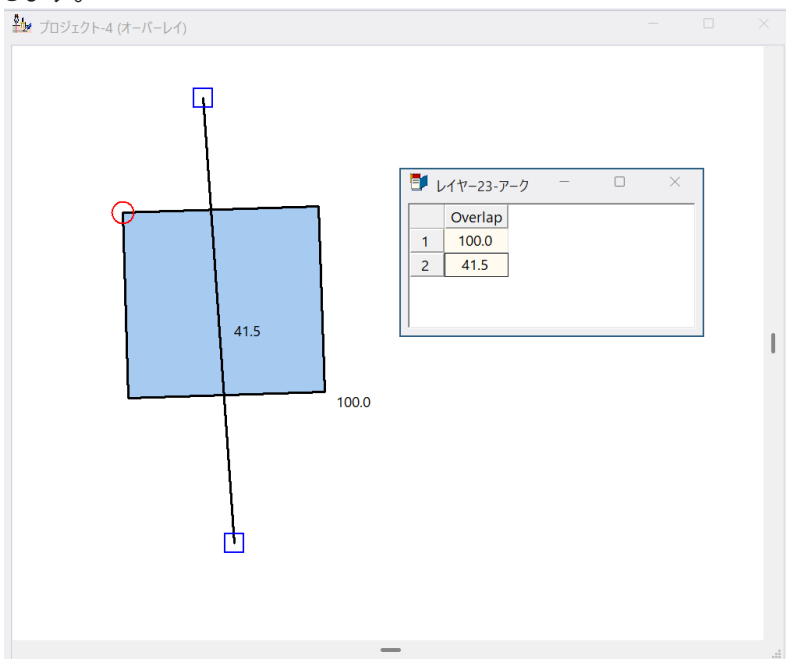


[バッファー生成]コマンドオプション追加

[ツール]-[領域検索]-[バッファー生成]-[バッファー生成]コマンド **BufferTrace** に新型のコマンドオプションの設定をしました。詳細につきましては、ヘルプファイルをご参照ください。

[アーク・ポリゴンオーバーラップ算出]追加

[ツール]-[空間統計解析]-[ポリゴンオーバーレイ]へ、[アーク・ポリゴンオーバーラップ算出]を追加しました。アークをポリゴンでオーバーレイ処理をしてオーバーラップ率を算出し、属性 DB への転記や指定以上のアークを選択状態にします。



「コマンド文での区切り文字」の設定機能の追加

【システム環境設定】-【操作 2】パネルへ「コマンド文での区切り文字」の設定を追加しました。こちらでコマンド実行の際の区切り文字を指定できます。

空白（ ）と カンマ（ , ）

空白（ ）と カンマ（ , ）と △

△ が使われた場合、△ のみを区切り文字と見なす

デフォルトは 2 になります。

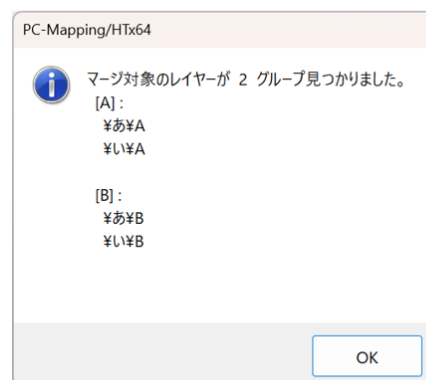
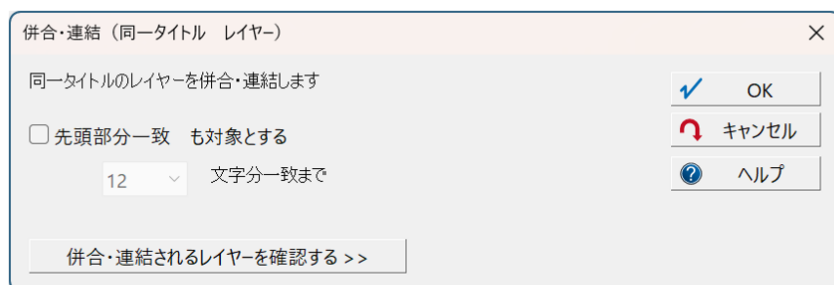
3 を指定した場合、コマンド文の引数に空白やカンマがあってもそのまま使用できます。

そのためレイヤー名に空白がある場合などに使用できます。

レイヤー【併合・連結（同一タイトル）】追加

【編集】-【編集】-【レイヤー】へ、【併合・連結（同一タイトル）】を追加しました。

同一タイトル、または、指定の文字数分先頭一致するレイヤーを、それぞれ1つのレイヤーに併合・連結します。



【地理院タイルを広域イメージに登録】オプション追加

【地理院地図】-【応用的】-【地理院タイルを広域イメージに登録】で、「PyramidTiff ファイルとして保存」もしくは「統合広域イメージ(wnai)ファイルとして保存」する場合、一時作業用フォルダーを指定できるようにしました。

※十分な空き容量のあるドライブのフォルダーを指定してください



クイックバーのトグルボタン(チェックボックス)オプション追加

[ワークスペース]-[カスタマイズ]-[クイックバー]-[クイックバーの設定]

クイックバーのトグルボタン(チェックボックス)へオプションを追加いたしました。

詳細につきましては、コマンド内ヘルプと、以下ヒント集をご確認ください。

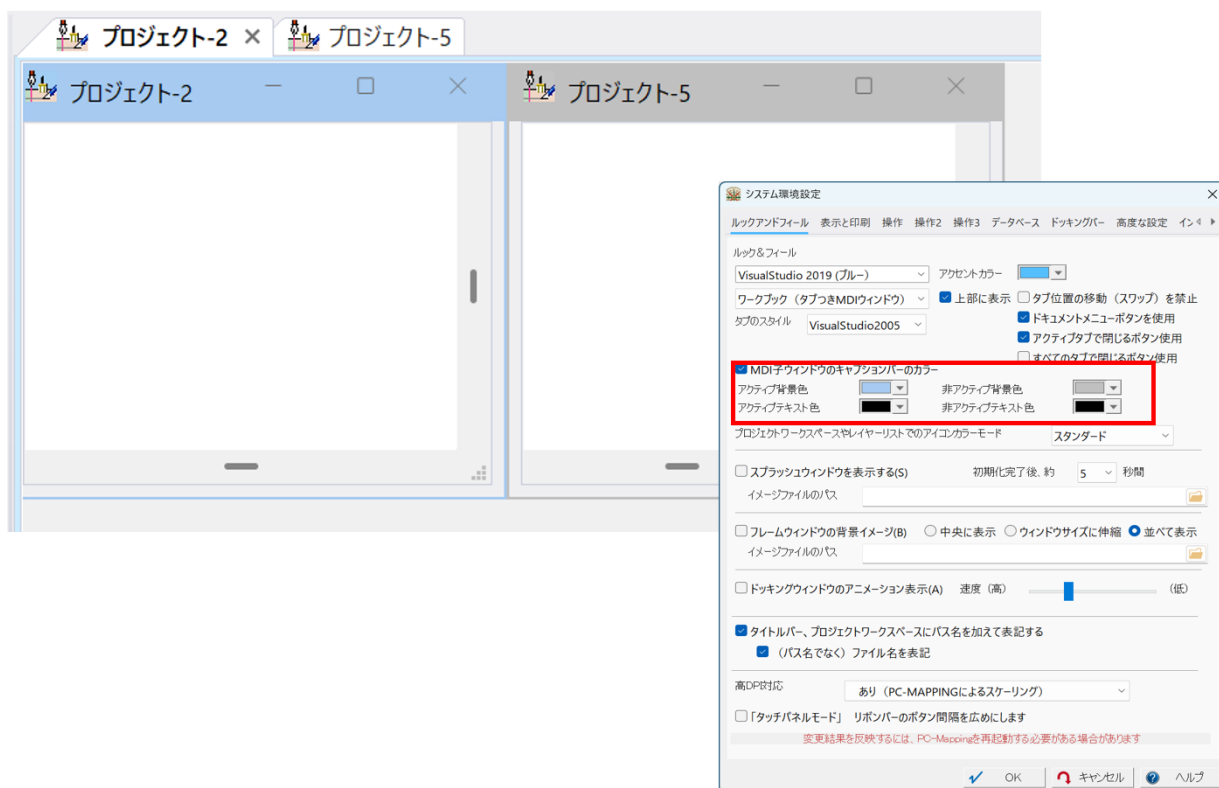
■ヒント集「[クイックバーの設定⑤ \[組み込みトグルボタン\]](#)」

MDI 子ウィンドウのキャプションバーのカラー設定を追加

[システム環境設定]-[ルックアンドフィール]パネル - [MDI ウィンドウの設定]

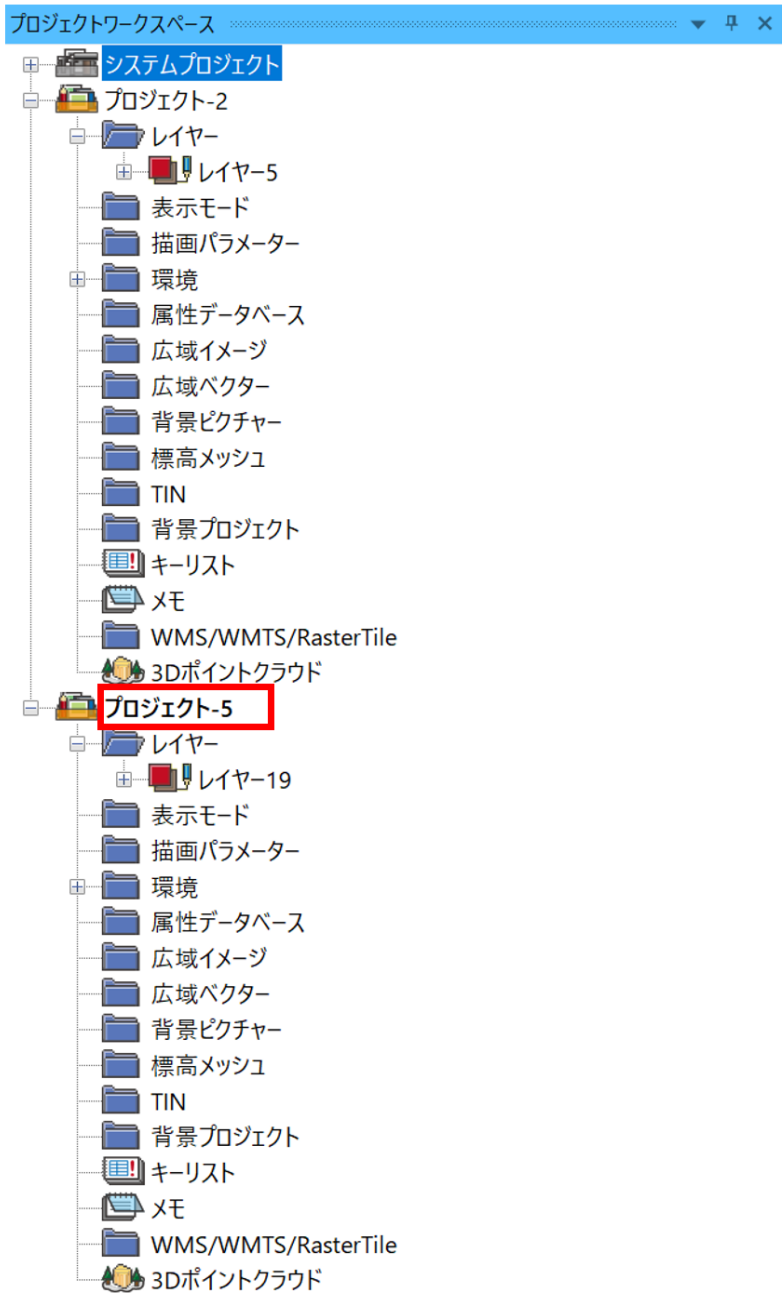
MDI 子ウィンドウのキャプションバーのカラー設定を行えるようにしました。どれかのウィンドウを明示的にアクティブにすることで反映されます。

使用例: 複数プロジェクトを開いている際、現在の実行対象の色のプロジェクトの色を変更することで分かりやすく表示できます。



[プロジェクトワークスペース]表示更新

[プロジェクトワークスペース]で、そのプロジェクトの MDI 子ウィンドウがアクティブな場合、そのタイトルが太字で表示されますが、**アクティブなプロジェクトを切り替えた場合に即時に反映されるよう改善しました。**



選択レコードのカレントレコード 着色変更

データベースウィンドウでの表示に関して、**選択レコードのカレントレコード**のそれぞれの指定色を、足して2で割ったような色になるようにしました。

ブレンド比率は pcm.ini において、
[DbCug]
ColorBlenRatio=0.5 で調整ができます。



	Name	@Render
1*	2023/4/1目撃情報 地点1	1
2*	2023/4/4目撃情報 地点2	1
3*	2023/4/11目撃情報 地点3	1
4	2023/4/18目撃情報 地点4	1
5	2023/5/1目撃情報 地点5	1
6	2023/5/4目撃情報 地点6	1
7	2023/5/5目撃情報 地点7	1
8	2023/5/10目撃情報 地点8	1
9	2023/5/14目撃情報 地点9	1
10	2023/5/15目撃情報 地点10	1

	Name	@Render
1*	2023/4/1目撃情報 地点1	1
2*	2023/4/4目撃情報 地点2	1
3*	2023/4/11目撃情報 地点3	1
4	2023/4/18目撃情報 地点4	1
5	2023/5/1目撃情報 地点5	1
6	2023/5/4目撃情報 地点6	1
7	2023/5/5目撃情報 地点7	1
8	2023/5/10目撃情報 地点8	1
9	2023/5/14目撃情報 地点9	1
10	2023/5/15目撃情報 地点10	1

選択レコードのカレントレコード ブレンド比率

[DbCug]
ColorBlenRatio=0.5 デフォルト

	Name	@Render
1*	2023/4/1目撃情報 地点1	1
2*	2023/4/4目撃情報 地点2	1
3*	2023/4/11目撃情報 地点3	1
4	2023/4/18目撃情報 地点4	1
5	2023/5/1目撃情報 地点5	1
6	2023/5/4目撃情報 地点6	1
7	2023/5/5目撃情報 地点7	1
8	2023/5/10目撃情報 地点8	1
9	2023/5/14目撃情報 地点9	1
10	2023/5/15目撃情報 地点10	1

[DbCug]
ColorBlenRatio=0(透過なし、指定色まま)

	Name	@Render
1*	2023/4/1目撃情報 地点1	1
2*	2023/4/4目撃情報 地点2	1
3*	2023/4/11目撃情報 地点3	1
4	2023/4/18目撃情報 地点4	1
5	2023/5/1目撃情報 地点5	1
6	2023/5/4目撃情報 地点6	1

[DbCug]
ColorBlenRatio=0.9(かなり薄)

	Name	@Render
1*	2023/4/1目撃情報 地点1	1
2*	2023/4/4目撃情報 地点2	1
3*	2023/4/11目撃情報 地点3	1
4	2023/4/18目撃情報 地点4	1
5	2023/5/1目撃情報 地点5	1
6	2023/5/4目撃情報 地点6	1

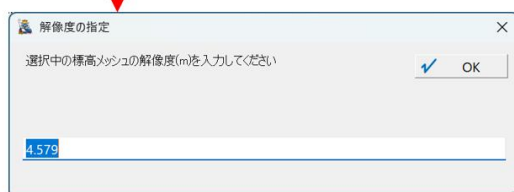
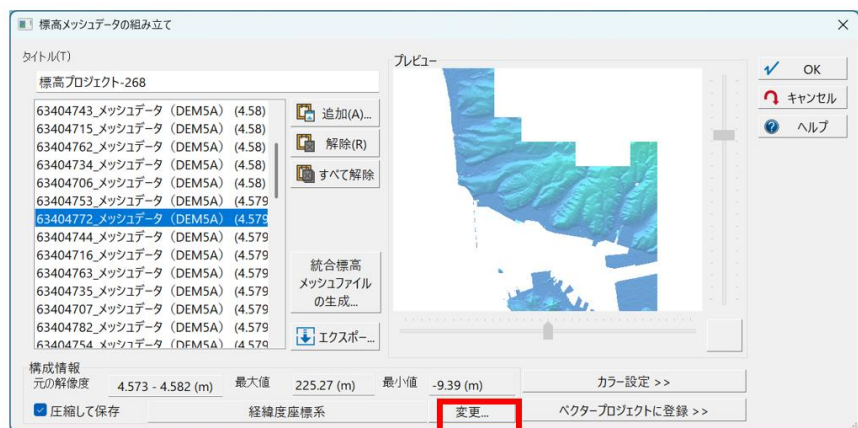
[DbCug]
ColorBlenRatio=1(完全透過)

	Name	@Render
1*	2023/4/1目撃情報 地点1	1
2*	2023/4/4目撃情報 地点2	1
3*	2023/4/11目撃情報 地点3	1
4	2023/4/18目撃情報 地点4	1
5	2023/5/1目撃情報 地点5	1
6	2023/5/4目撃情報 地点6	1
7	2023/5/5目撃情報 地点7	1

ブレンド比率

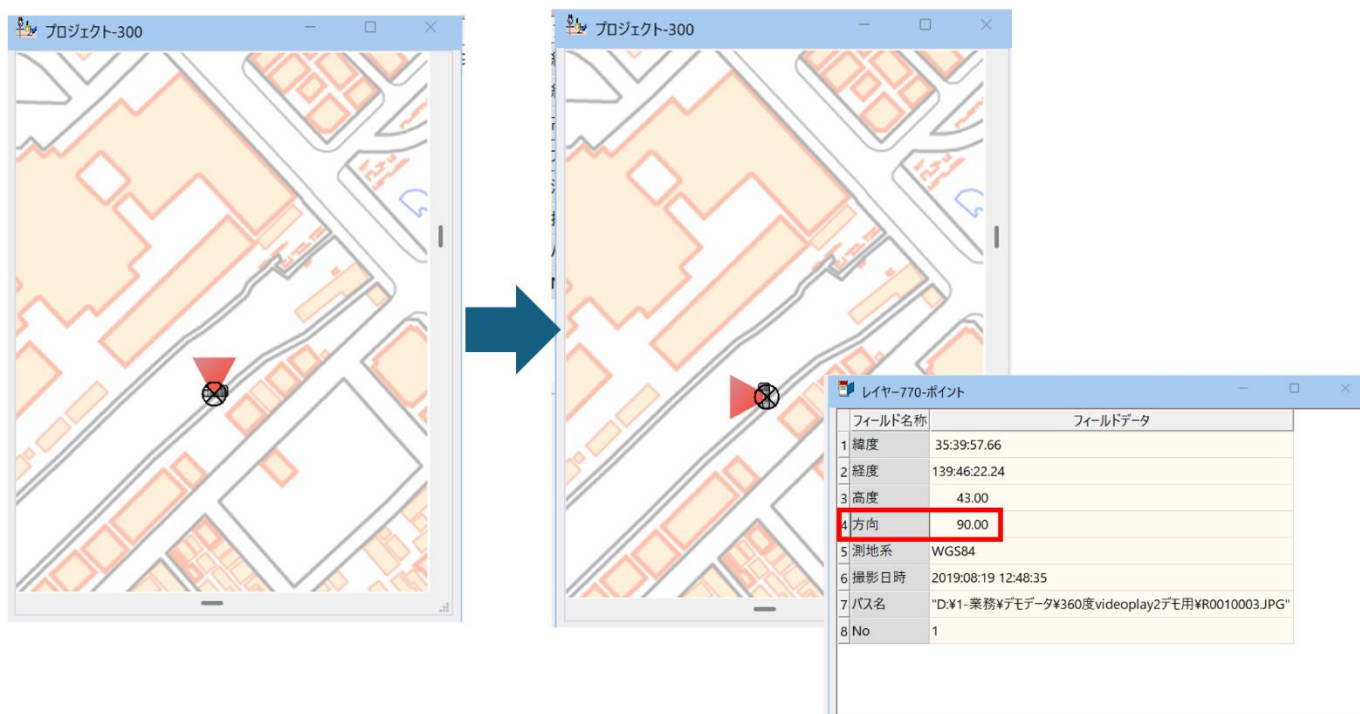
「標高メッシュプロジェクトの設定」オプション追加

[ホーム]-[ファイル]-[新規]-[標高メッシュ]「標高メッシュプロジェクトの設定」で、「系の変更」ボタンを「変更」ボタンに変更し、続くポップアップメニューに「解像度を指定...」を追加しました。選択されている標高メッシュ分の解像度を明示的に変更できます。



[EXIF-JPEG ファイル]の方向の指定

[システム]-[画像]-[EXIF-JPEG ファイル]等の、GPS 情報付き EXIF-JPEG ファイルの取り込みに関しまして、カメラの撮影方向情報のないデータに対して、点位置(進行)方向を基準にオフセットを指定して、カメラの向きを指定できるようにしました。



[GeoTiff ファイルからワールドファイルの生成]追加

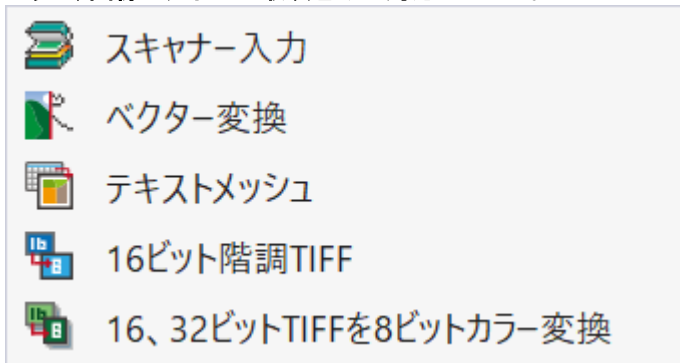
[システム]-[画像]へ、[GeoTiff ファイルからワールドファイルの生成]を追加しました。
GeoTiff ファイル群からワールドファイルを生成します。
オプションで PRJ ファイルを同時生成することも可能です。

[16 ビット階調 TIFF ファイルを 8 ビットカラー TIFF に変換]追加

[システム]-[画像]-[画像入力変換]-[16 ビット階調 TIFF ファイルを 8 ビットカラー TIFF に変換]
のダイアログ構成、機能を一新しました。
また、これらの変換設定を 画像入力時の自動変換設定としても利用できるようにしました。
詳細につきましては、ヘルプファイルをご参照ください。

[システム]-[画像]-[画像入力変換]メニュー改称

[システム]-[画像]-[画像入力変換]の
「16 ビット TIFF を 8 ビットカラーに変換」を
[16 ビット階調、32 ビット階調 TIFF ファイルを 8 ビットカラー TIFF に変換]に改称し、32 ビット階調の TIFF (32bit X3・X4
のカラー) 画像ファイルの取り込みに対応しました。



[地理院地図]-[広域イメージ登録]修正

[地理院地図]-[応用的]-[地理院タイルを広域イメージに登録]
[地理院地図]-[タイル形式画像リンクデータ]-[タイル形式画像を広域イメージに登録]において、
統合広域イメージファイル(*.wnai)の生成を指定した場合、
指定範囲とズームレベルの組み合わせ等によって、画像の一部が欠落・破損する場合がある問題を修正しました。

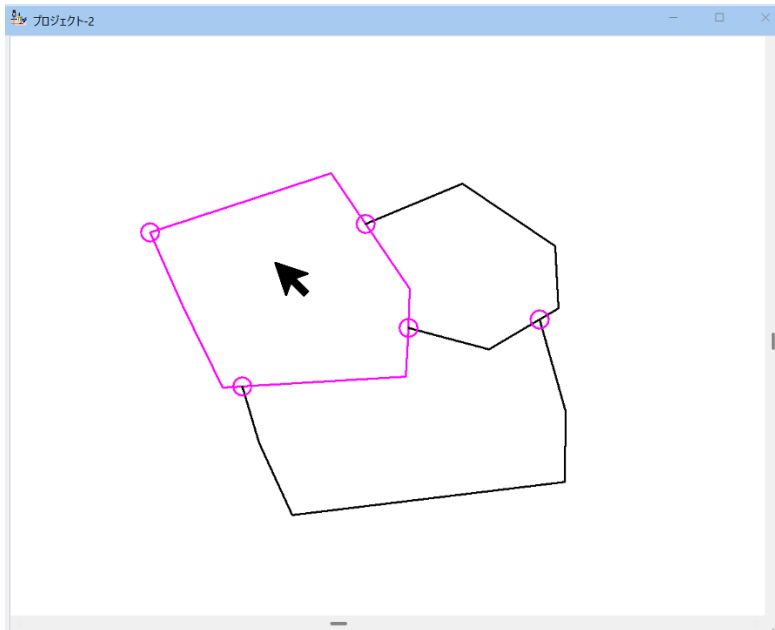
Proc 系コマンド追加

コマンド「TaskMenuProc」を追加しました。タスクバー自体の制御を行います。

詳細につきましては、ヘルプファイルをご参照ください。
[メニューにないコマンド]-[Proc 系コマンド]

[指定点を包含する(仮想)ポリゴンを構成するアーク選択反転]追加

[選択]-[個別選択]-[構造選択]に、[指定点を包含する(仮想)ポリゴンを構成するアーク選択反転]を追加しました。指定された点に最近接するアークから仮想的なポリゴンを構成できる場合、その構成アークの選択状態を反転します。実際のポリゴンが生成されている必要はありません。



リレーション起動 オプション追加

リレーション起動に関して、特定の拡張子を特定のアプリ等でオプションを付けて起動できる機能を追加しました。詳細につきましては、ヘルプファイルをご参照ください。
[付録>>]-[リレーション起動オプション]

索引図(インデックスマップ)の背景ピクチャー設定

索引図(インデックスマップ)のプロジェクトデータがある場合、**整飾プロジェクトに、背景ピクチャーとして、索引図プロジェクトファイルを設定**できます。

※索引図になる本図のデータと同じ座標系であること

[プロジェクトエキスパート]-[背景ピクチャー]パネル - 【キーリスト】ボタンより、背景ピクチャーのキーリストに、**@IndexMap = f.f**をセットします (通常 f.f は 1.0 以上)※1
「背景ピクチャーをセットした整飾プロジェクト」を使って印刷することで、
本図の印刷範囲分が、整飾プロジェクトの背景ピクチャーの索引図プロジェクトで出力されます。

※1

@IndexMap = f.f

例: @IndexMap =2.0

索引図プロジェクトの描画範囲を、本図の描画範囲の 2.0 倍に広げる。

参考: [印刷時の索引図を設定する](#)

本図の描画範囲を指定する

索引図プロジェクトに「@FrameIn」レイヤーがあり、第 1 アークが 4 角形、即ち始終点含めて 5 点のアークであれば、その座標で本図の描画範囲を構成するよう調整します。

索引図プロジェクトの描画範囲を指定する

索引図プロジェクトに「@FrameOut」レイヤーがあり、第 1 アークが 4 角形、即ち始終点含めて 5 点のアークであれば、その座標で 索引図プロジェクトの描画範囲を構成するよう調整します。

つまり索引図の図郭相当になります。

例



・索引図プロジェクトに「@FrameIn」レイヤーがあり、中抜けポリゴンがある場合、索引図の外側の色塗り(A)を行います。

・索引図プロジェクトに「@FrameOut」レイヤーがあり、四角形の色に従って、索引図の外側の線色(B)を決定します。

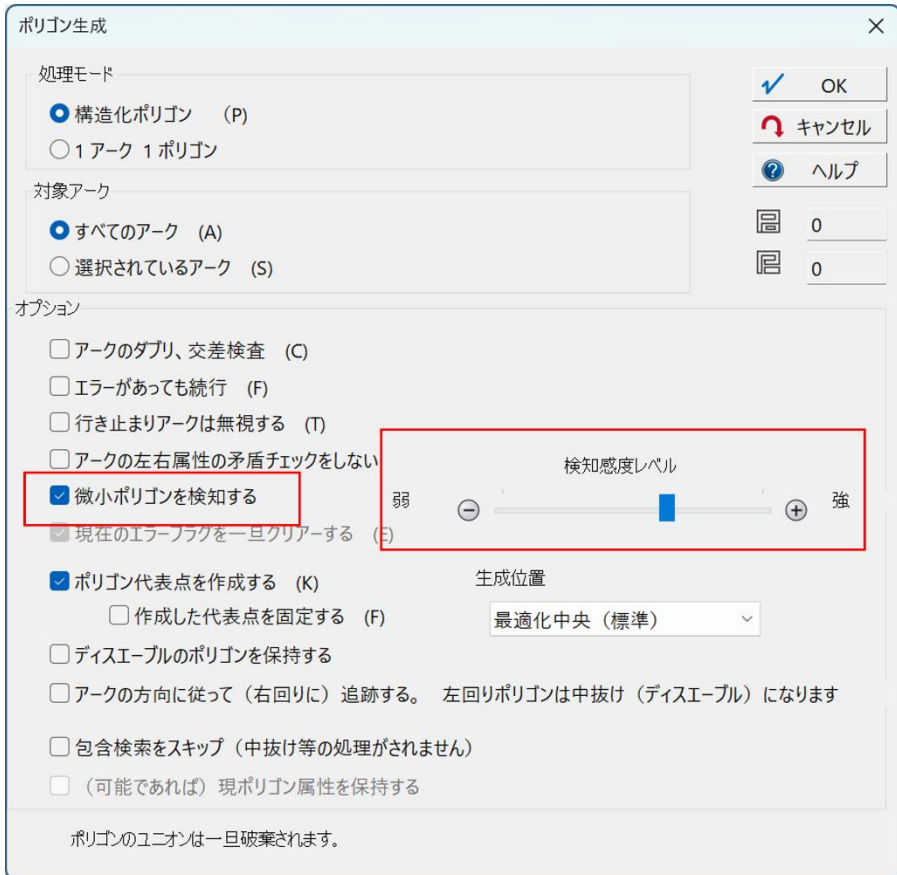
[整飾プロジェクトの生成]-「索引図(インデックスマップ)」オプション追加

[システム]-[プロジェクト]-[整飾プロジェクトの生成]へ、
「索引図(インデックスマップ)」オプションを追加しました。
ON の時、指定したプロジェクトを「索引図」として表示します。

[ポリゴン生成]ダイアログ変更

[編集]-[ポリゴン]-[生成]-[ポリゴン生成]ポリゴン生成のダイアログ設定で、「微小ポリゴンを検知しない」チェックを「**微小ポリゴンを検知する**」に変更しました。

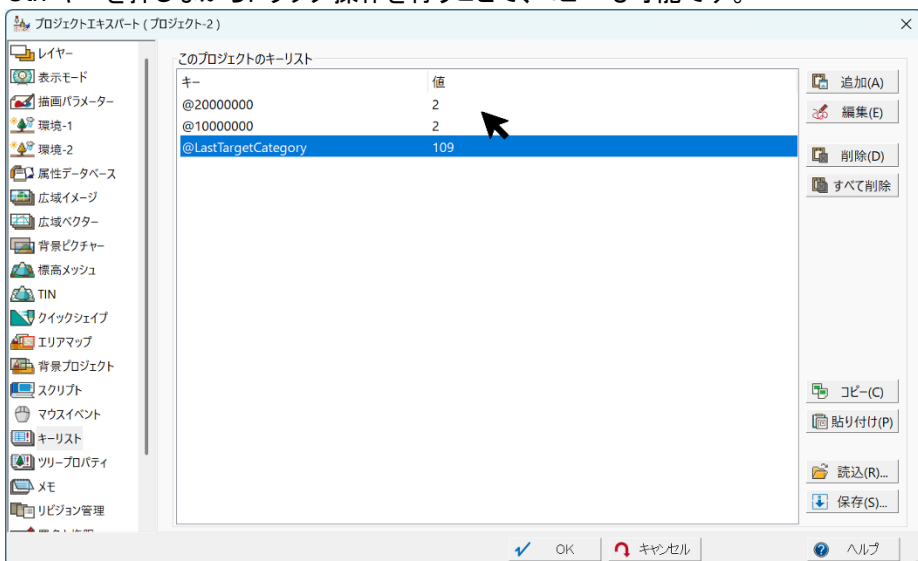
「微小ポリゴンを検知する」ON の場合、**検知レベル**を明示的に弱から強まで段階をもって調整できます。



[キーリスト]パネル 操作追加

[プロジェクトエキスパート]-[キーリスト]パネル、[レイヤーエキスパート]-[キーリスト]パネル等のキーリストの設定ダイアログで、**ドラッグアンドドロップによる移動(順位の入れ替え)**を可能にしました。

Ctrl キーを押しながらドラッグ操作を行うことで、コピーも可能です。

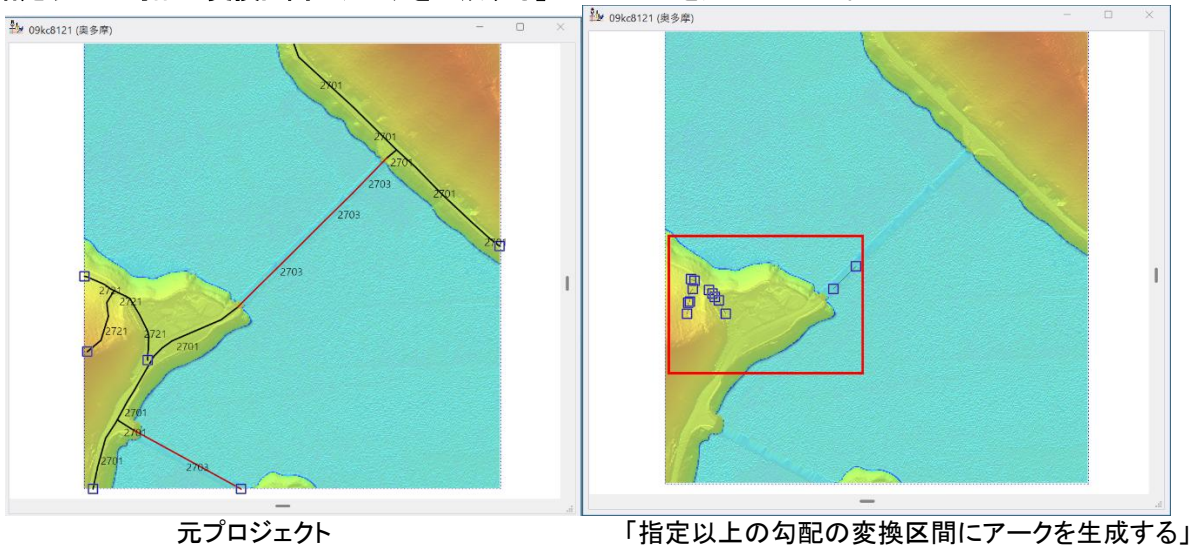


[ポリゴン生成]コマンド オプション設定

[編集]-[ポリゴン]-[生成]-[ポリゴン生成] コマンド「PolTrace」へ新型のコマンドオプションを設定しました。
新型コマンドオプションにつきましては、[ポリゴン生成]ヘルプファイルの、「コマンドパラメーター」欄をご参照ください。

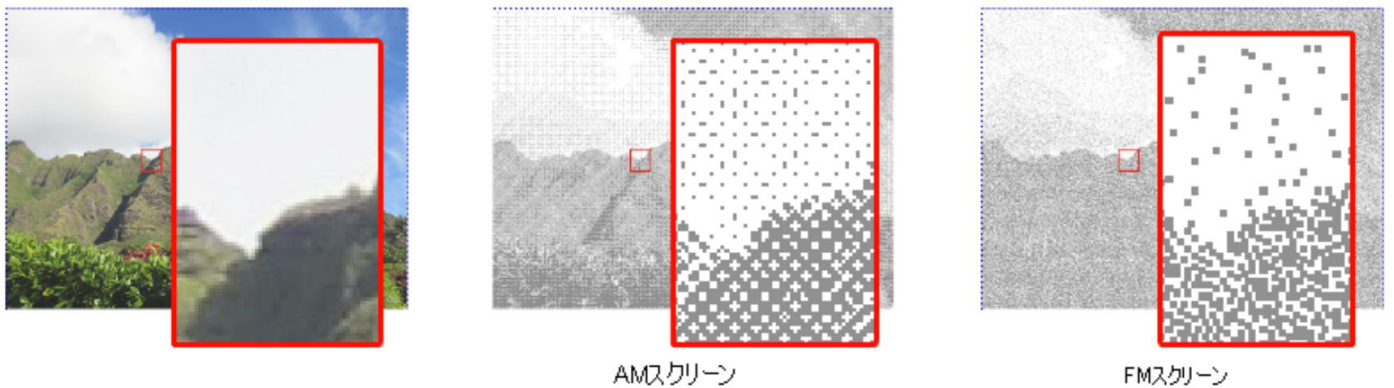
[アーク勾配算出]オプション追加

[編集]-[編集]-[Z 値]-[アーク勾配算出]へ、
「指定以上の勾配区間をもつアークを選択する」
「指定以上の勾配区間にポイントを生成する」
「指定以上の勾配の変換区間にアークを生成する」 オプションを追加しました。



[イメージ]-[変換]新規オプション追加

[イメージ]-[変換]-[特殊]へ、
「網点(AM、FM スクリーン)化」を追加しました。
階調のあるイメージを、1ビットモノクロの網点表現(AM,FM スクリーン)に変換します。



地理院地図表示 オプション追加

[地理院地図]-[地図種別(規定値)]-[地理院タイル等表示設定]

[ホーム]-[地理院地図]-[表示設定]

コマンド「DispModeCjBk」に新型のオプションを追加しました。

-Mono 0|1

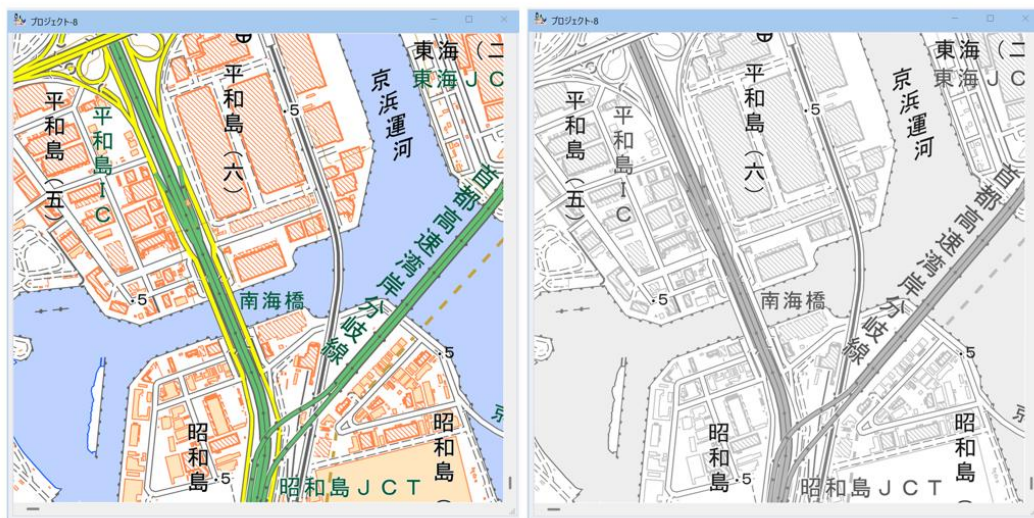
…0:通常(カラー)表示

…1:モノクロ化して表示

例:地理院地図をモノクロ化して表示

DispModeCJBK△-Mono△1

※△は半角空白



「pcm.ini ファイルを文字コード UTF16LE で保存する」追加

[システム環境設定]-[操作 2] パネルへ、

「pcm.ini ファイルを文字コード UTF16LE で保存する(推奨)」を追加しました。

ON でグレーアウトしているときは、既に「UTF16LE」になっています。

OFF の場合は、ON にして、「UTF16LE」に変換します(推奨)。

※Windows メモ帳で、pcm.ini ファイルを編集した場合、デフォルトが UTF8 のため、文字化けが起こる場合への対処です。

※Pcm.ini 編集についての注意

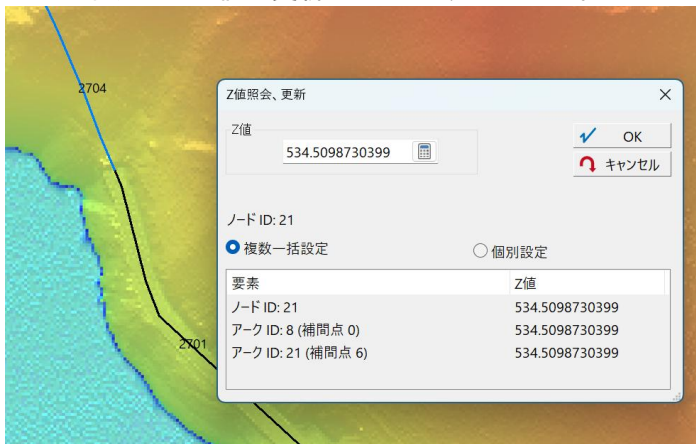
Pcm.ini を Windows メモ帳で編集(もしくは開いた)場合、文字コードが UTF8 に変換されますが、そのまま書き保存すると、Pcm.ini ファイルが UTF8 になり、文字化けが起こる場合や、最悪の場合、**ini ファイルとして一部の情報が読み取れなくなる**場合があります。

[システム環境設定]-[操作 2]-「pcm.ini ファイルを文字コード UTF16LE で保存する(推奨)」の、チェックが ON でグレーアウトしているときは既に UTF16LE になっています。

そうではない場合は、チェック ON として、【OK】ボタンクリックで、ini ファイルを「UTF16LE」に変換します。

[Z 値]-[Z 値照会・更新]ダイアログ更新

[編集]-[編集]-[Z 値]-[Z 値照会・更新]で、同一座標を共有する複数のポイント・ノード・アーク補間点がある場合、一括、もしくは個別でも Z 値の更新ができるようにしました。



[Z 値]-[個別 Z 値付与]オプション追加

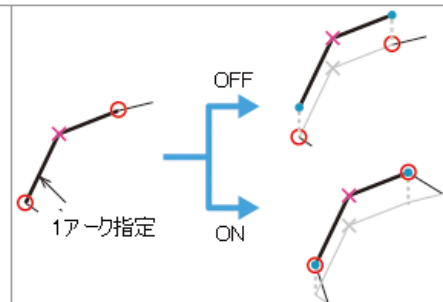
[編集]-[編集]-[Z 値]-[個別 Z 値付与]の、

- 「アーク(1アーク単位)」に対して、「両端ノードと、接続アーク補間を含める」オプションを追加しました。
- 「アーク(補間点単位 含ノード)」に対して、「ノードの場合、他の接続アーク補間を含める」オプションを追加しました。

●: アークの始点・終点 ×: 補間点 ○: ノード (端点・結合点)

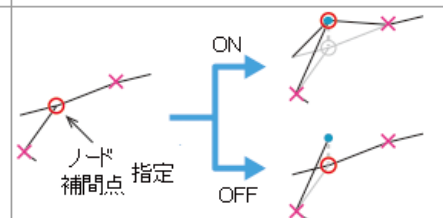
●アーク (1アーク単位)

始点、終点、補間点に Z 値を付与します。
アークに重なるノード (結合点、端点) には付与しません。
「両端ノードと、接続アーク補間を含める」チェックボックス
ON の時、アークの始点、終点とともに、アークに重なるノード
(端点、結合点) にも同時に Z 値を付与します。



●アーク (補間点単位 含ノード)

始点、終点、補間点に Z 値を付与します。
「ノードの場合、他の接続アーク補間を含める」チェックボックス
ON の時 (デフォルト)、ノードを指定した場合、アークに重なる
ノード (端点、結合点) にも同時に付与します。
OFF の場合、いずれか 1 点のみ付与されます。



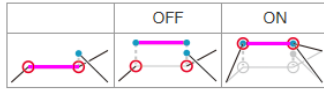
[Z 値]-[一括 Z 値付与]オプション追加

【編集】-【編集】-[Z 値]-[一括 Z 値付与]の、アークに対して、「始終点ノード、すべての接続アークでの Z 値の整合を取る」オプションを追加しました。

ノードに対して、「すべての接続アークでの Z 値の整合を取る」オプションを追加しました。

【始終点ノード、すべての接続アークでの Z 値の整合を取る】チェックボックス

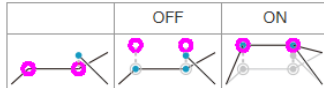
ON の時、アーク単位に Z 値付与した場合、該当アークだけでなく、始終点ノード及び始終点に接続するすべてのアークの接続部の Z 値も更新します。
「増分」/「ファクター」が ON の時は利用できません。



●: アークの始点・終点 ○: ノード (端点・結合点)

【すべての接続アークでの Z 値の整合を取る】チェックボックス

ON の時、ノード単位に Z 値付与した場合、ノードだけでなく、ノードに接続するすべてのアークの接続部の Z 値も更新します。



●: アークの始点・終点 ○: ノード (端点・結合点)

[Z 値]-[ノード・アーク間 Z 値操作]オプション追加

【編集】-【編集】-[Z 値]-[ノード・アーク間 Z 値操作]へ、「アーク接続部で Z 値不一致ノードを検出して選択する」オプションを追加しました。

◎アーク接続部で Z 値不一致ノードを検出して選択する

アーク接続部で、Z 値が不一致となるノードを選択します。

不一致となった場合は、ログファイルをメモ帳に表示します。



計算フィールド 新規コマンド追加

計算フィールドに「TokenGet」を追加しました。

TokenGet(文字列, 区切り文字, インデックス)

指定された文字列を区切り文字で分割し、指定されたインデックス番目 (0~) の文字列を取得する。

例: TokenGet(a , b , n)

文字列 a を文字列 b をセパレーターにして分解後、n 番目の文字列を取得します。

[データベース]-[表示]追加

【データベース】-[表示]へ、【フィールドインデックス】を追加しました。

データベースウィンドウでのフィールド名の表記に、1 からの連番を付加します。

	1: レコード ID	2: 地物種別コード	3: 種別	4: 道路分類	5: 道路状態	6: 幅員区分	7: @Render
1	50037-12879-i-158	2701	通常部	国道	通常部	5.5m-13m未満	10
2	50037-12879-i-161	2701	通常部	国道	通常部	5.5m-13m未満	10
3	50037-12876-i-88	2701	通常部	都道府県道	通常部	5.5m-13m未満	11
4	50037-12876-i-89	2701	通常部	国道	通常部	5.5m-13m未満	10
5	50037-12876-i-90	2701	通常部	国道	通常部	5.5m-13m未満	10
6	50037-12876-i-91	2701	通常部	国道	通常部	5.5m-13m未満	10

[属性転記(レイヤー間)]オプション追加

[属性]-[オプション]-[属性転記]-[属性転記(レイヤー間)]の、

- アークから最近接するポイント
 - アークから最近接するアーク
 - アークから最近接するポリゴン
 - ポリゴン外周から最近接するポイント
 - ポリゴン外周から最近接するアーク
 - ポリゴン外周から最近接するポリゴン
- に関して、検索する最大範囲を指定できるようにしました。
遠いところは捉まえないといった処理が行えます。

また、「1つに絞り込めない場合、任意の1要素から付与」チェックを追加しました。

こちらが ON の場合、1 つに絞り込めない場合はいずれか 1 つから属性付与を行います。

属性転記 (レイヤー間)

転記処理(P) ☒ 拡張モード

アークから最近接するポイント

☒ 解像度 (分解能) 程度の公差許容値を見込む

☐ ポリゴン境界線上の場合、包含されるものとする

☐ ポリゴン境界線上の場合、右側下側ポリゴン包含とする

☐ ポリゴン境界線上の場合、左側上側ポリゴン包含とする

検索する最大距離(m) 10 ☒ 1つに絞り込めない場合、任意の1要素から付与

転記元レイヤー(S) ☐ 選択されている要素のみを対象(Q) 0 (選択要素数)

道路中心線

転記元フィールド(F) ☐ データベースリンクした値を転記する

優先フィールド指定

[1] レコード ID

[2] 地物種別コード

[3] 種別

[4] 道路分類

[5] 道路状態

[6] 幅員区分

[7] @Render

☐ 「めがね線」を生成する

転記元フィールドを複数選択した場合、転記先に同一名のフィールドがないときは新規にフィールドを作成して、転記します

転記先レイヤー(T) ☐ 選択されている要素のみを対象(Q) 0 (選択要素数)

道路中心線

☐ ユニオン構成要素にも転記する

転記先フィールド(G)

フィールドを新規に追加

[タスクメニュー]オプション追加

[ワークスペース]-[コマンドバー]-[タスクメニューバー]のタスク設定に関して、

- 「常時使用可」
- 「ベクタードキュメント時のみ使用可」
- 「データベースドキュメント時のみ使用可」

の選択オプションを追加しました。指定のドキュメントでない場合はそのタスクはグレイアウトします。

あわせて、「使用不可の場合、(グレイアウトではなく)非表示(---表示)とする」オプションを追加しました。

The screenshot displays the software interface with a map on the left, a task menu on the top right, and a data table at the bottom.

Task Menu (タスクメニューバー):

- 検索・解析 (Search & Analysis)
- 検索 (Search): 老人ホームから1400mの病院 (Hospital within 1400m of nursing home)
- 解析 (Analysis): ルート解析 (Route Analysis), 断面図 (Cross-section diagram) [highlighted with a red box]

Data Table:

	id	uuid	存在期間_自	存在期間_至	整備完了日	出典地図情報
1	K21_5035512903_1	50355-12903-s-27991	20220203		20231215	2500
2	K21_5035512903_2	50355-12903-s-28114	20220203		20231215	2500
3	K21_5035512903_3	50355-12903-s-28269	20220203		20231215	2500
4	K21_5035512903_4	50355-12903-s-28270	20220203		20231215	2500
5	K21_5035512906_1	50355-12906-s-32096	20220203		20231215	2500
6	K21_5035512906_2	50355-12906-s-32230	20220203		20231215	2500
7	K21_5035512906_3	50355-12906-s-32231	20220203		20231215	2500
8	K21_5035812903_1	50358-12903-s-25846	20220203		20231215	2500
9	K21_5035812903_2	50358-12903-s-25847	20220203		20231215	2500
10	K21_5035812903_3	50358-12903-s-25848	20220203		20231215	2500
11	K21_5035812903_4	50358-12903-s-25849	20220203		20231215	2500
12	K21_5035812903_5	50358-12903-s-25850	20220203		20231215	2500
13	K21_5035812903_6	50358-12903-s-25851	20220203		20231215	2500
14	K21_5035812903_7	50358-12903-s-25971	20220203		20231215	2500
15	K21_5035812903_8	50358-12903-s-25972	20220203		20231215	2500
16	K21_5035812903_9	50358-12903-s-26006	20220203		20231215	2500
17	K21_5035812903_10	50358-12903-s-26007	20220203		20231215	2500
18	K21_5035812903_11	50358-12903-s-26008	20220203		20231215	2500
19	K21_5035812903_12	50358-12903-s-26009	20220203		20231215	2500
20	K21_5036112900_1	50361-12900-s-17735	20201222		20231215	25000

Task Menu (タスクメニューバー) - Bottom:

- 検索・解析 (Search & Analysis)
- 検索 (Search): 老人ホームから1400mの病院 (Hospital within 1400m of nursing home)
- 解析 (Analysis): ルート解析 (Route Analysis), --- [highlighted with a red box]

「ベクタードキュメント時のみ利用可」「使用不可の場合、(グレイアウトではなく)非表示(---表示)とする」を ON にした場合

[座標で表示中心位置設定]項目追加

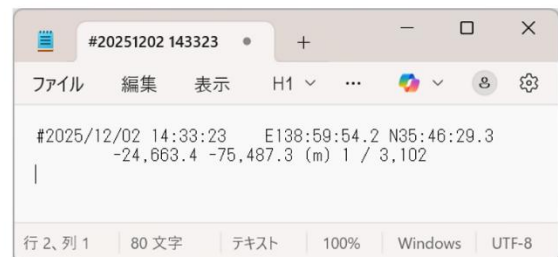
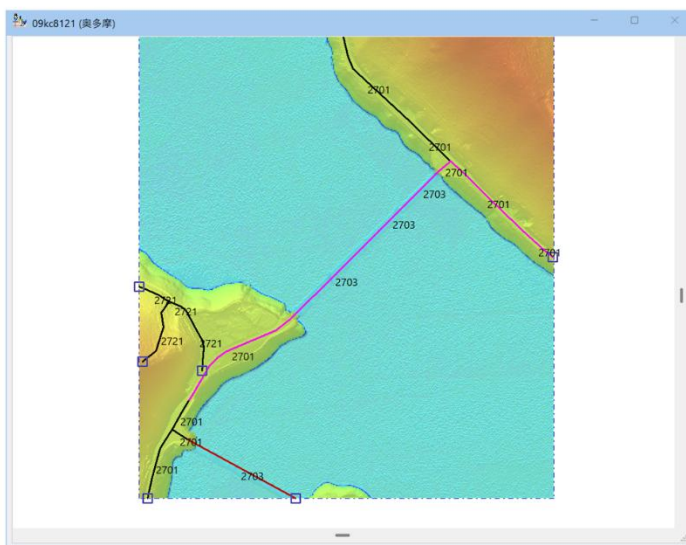
[画面表示]-[画面表示]-[表示領域]-[座標で表示中心位置設定]のダイアログで、直角座標系指定時に、3桁のカンマ区切りで、XY座標を記述する型式に対応しました。

スナップショット機能 オプション追加

コピー(PrintScreen)キーなどによるスナップショット機能に関して、画像だけでなく、その時のステータスバーの座標情報なども文字列としてクリップボードにコピーされるようにしました。

[拡張]-[スナップショット]-[スナップショット機能の設定]ダイアログ、「ステータスバーの座標情報なども文字列としてクリップボードにコピーする」チェックをONにすることで有効になります。

また、同じ内容が、アウトプットバー「出力」「計測」ペインにも表記されます。



「表示モード」機能追加

プロジェクトワークスペースの「表示モード」に関して、登録された表示モードをダブルクリックすることでその表示モードに切り換えるようにしました。

また、右ボタンメニューに「表示モードの編集」を追加しました。こちらからも[プロジェクトエキスパート]-[表示モード]パネルを開けます。



[文字列編集]-[文字列間交差検査]追加

[編集]-[編集]-[文字列編集]-[文字列間交差検査]を追加しました。

文字列のアウトライン(ベクター間)の交差判定を行い、交差箇所にマーカーポイントが発生させたレイヤーを生成します。

[固有属性選択]Z 値での選択 追加

[選択]-[属性選択]-[固有属性選択]

[固有属性による選択]ダイアログで、Z 値による選択条件を指定できるようにしました。

また、アーク・ポリゴンに関して、

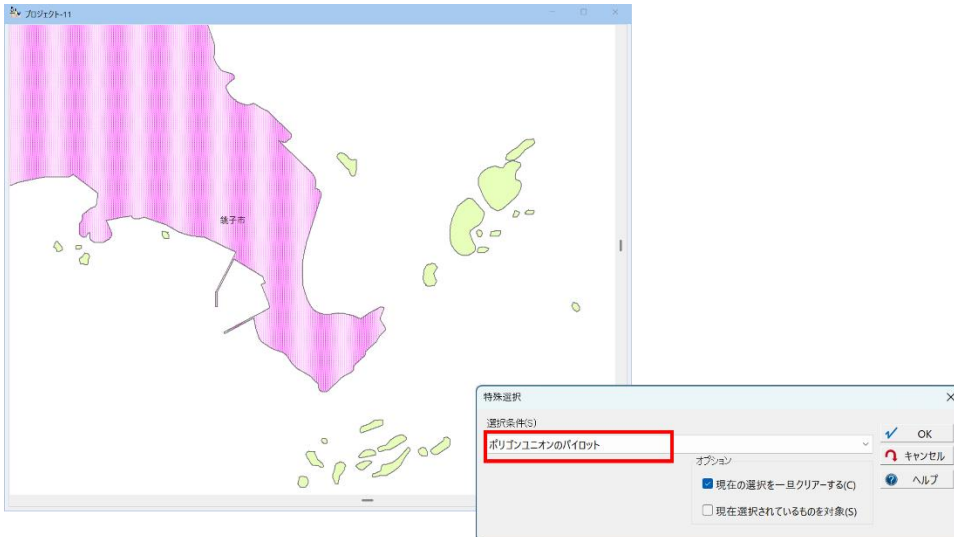
- 全点が指定条件を満たす場合に選択するか
- 1点でも満たす場合に選択するか を指定できます。



[特殊選択]ユニオンのパイロット追加

[選択]-[個別選択]-[特殊選択]へ、

- ノードユニオンのパイロット
- アークユニオンのパイロット
- ポリゴンユニオンのパイロット
- ポイントユニオンのパイロット を追加しました。



「コマンド文での区切り文字」の設定 オプション追加

[システム環境設定]-[操作 2]パネル「コマンド文での区切り文字」の設定へ、オプションを追加しました。

- [全角の空白も区切り文字として扱う]
…チェックボックス ON の時、全角の空白も半角の空白と同じ区切り文字として扱います。
- [全角クォーテーション文字を半角にして引用符区切りとして扱う]
…チェックボックス ON の時、全角のクォーテーション(“、”)がまぎれていても、半角(“、”)と判断し、引用区切りとして扱います。

「メニューにないコマンド」を追加

以下のメニューにないコマンドを追加しました。

- **PushCurrentView**
…現在のアクティブなビューを記憶する
- **PopCurrentView**
…記憶されたビューをアクティブなビューとして復元する

メニューを実行したあとに元のウィンドウに戻る場合に、これらのコマンドを利用しない場合だと

1. ActivateDB "AAA"(データベースで何らかの処理を実行)
2. ActivateProject "XXX" …XXX というプロジェクトであることを決めておく必要がある
となり、プロジェクトの指定が必要です。

これらのコマンドを利用すると、

1. **PushCurrentView**
2. ActivateDB "AAA"(データベースで何らかの処理を実行)
3. **PopCurrentView**
となり、プロジェクトの絶対の指定が不要になります。

ご注意

1. 本文の内容に関して将来予告なしに変更することがあります。
2. 本文の機能説明とヘルプの機能説明に相違点が発生した場合はヘルプの記述を優先してください。
3. 本文の内容につきましては、万全を期して作成しましたが、技術的な内容について万一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがございましたら（株） マプコンまでご連絡ください。

本書に記載されている会社名・商品名等は、各社の商標または登録商標です。

株式会社 マプコン

URL: <https://www.mapcom.tokyo/>

MAIL: info@mapcom.co.jp

